

平成 29 年度
運営状況に対する評価書

和歌山県立博物館評価(平成29年度事業評価用)

博物館長による評価	特別展・企画展の質について、県の内外から高評価を得ているところであるが、それを入館者数増加に結びつける努力が必要であろう。自然災害や盗難などに対する施策は行われているが、次の段階として、博物館が実際の避難施設として役立つようシュミレーションしておく時期に来ているかに思われる。従来から、よい展覧会企画への努力ははらわれているが、それを広く国内に発信するために、広告媒体を使うとともに、メディアをよりいっそう活用することが望まれる。
評価部会による評価	和歌山県の文化財を対象に、調査・研究、展示、保管、資料購入等の基本業務が確実に遂行されている。県内事情による災害問題・過疎盗難問題、散逸文化財緊急調査等に適切に対応、対処し、特徴ある博物館活動も認められる。その上で、業務の改善・充実のために、入館者数の拡大をめざし、企画展の決定の早期化、展示動員や広報活動の工夫、外国語対応、また調査展示業務担当分野の不足、教育活動分野の不足を補うため、多様な人材確保の工夫が必要不可欠である。

平成29年度 和歌山県立博物館評価様式

1. 資料収集・管理

博物館長による所見	県内資料の購入・寄託とも積極的に行っており、他県にくらべてもその充実ぶりは遜色ない。ただし収蔵庫の収蔵率が100%近いことは心配であり、また災害時の緊急避難のことも考えると、常に一定度の残存率を確保しておくことが望ましい。学習室の利用が少なく、そこに備えられた開架図書が有効に活用されているとはいいいがたい。
評価部会による所見	収蔵庫の残り容量が少ないので、寄託資料のうち、保管の必要性が低く、活用の可能性がないものについては、返却することを考慮すべきである。インターネット上で画像データを公開するにあたっては、十分にその方向性を整理しておくべき。画像データの提供は、博物館の普及活動の一環と評価できるが、商業利用に対する有料化の方向性も検討する必要があるのではないか。図書資料を含め、収蔵資料がデータ化され、学芸員が情報共有できるようになっている点は評価できる。

①資料収集

A. 資料収集方針に沿った資料の収集が行われたか。収集手続きは適正か。(1)

平成29年度目標	資料収集方針に沿って、適正に資料を収集する。美術資料選定委員会を1回開催する。防犯・防災上の大規模受託についてのシミュレーションを行う。
自己評価	資料の購入については、2月27日に美術資料選定委員会を開催し、購入の妥当性及び価格について判断を仰いだ上、購入手続きを行った(計7,973,860円)。資料の受贈及び受託については、資料収集方針に基づき、その都度担当学芸員が過去の実績や現況を慎重に判断した上で、寄贈・寄託を受けた。
課題・改善案	購入については、購入予算を維持し、とくに高野山・熊野関係の資料の充実をめざす。防犯・防災上の理由による資料の受託に対する備えをしておくとともに、所有者の状況改善にともなう受託終了・返却の方向性についても、検討・協力する。

B. 購入・受贈・受託数は何件・何点か。(2)

平成29年度目標	新規購入・受贈・寄託件数・点数を把握する。収蔵庫別に、残り収蔵容量の把握をより正確に行う。
自己評価	29年度の購入資料は10件184点、寄贈資料は8件15点、新規寄託資料は100件1,183点であった。収蔵庫の収蔵率は、85～90%程度。
課題・改善案	収納棚・棚板の増設に関する中長期的な計画を立てる。

②資料保存

A. 資料の保存環境は適切か。(3)

平成29年度目標	資料の適切な保存環境を維持する。IPM手法・春秋期の空調機間欠運転の検討を行う。
自己評価	収蔵庫及び展示ケース内については、24時間空調で管理している。虫菌害を防ぐために、害虫トラップの設置・回収を1か月単位で行った。また、外来の資料は、収蔵庫に配架する前にガス燻蒸(エキヒューム)を行うとともに、展示室・一時保管庫・搬入口・書庫などの区画で、ガス燻蒸(ブンガン)を行った。このほか、収蔵庫・展示ケース内の空気環境・空中浮遊菌調査等を行った。
課題・改善案	掃除機等による収蔵庫内の清掃を励行する。虫菌害に関して、ガス燻蒸以外の防除手法についても研究する。引き続き、春秋の季節に空調機の間欠運転が可能か検討する。収蔵庫外覧部への点検口設置を検討する。

B. 資料の点検調査を行ったか。(4)

平成29年度目標	寄託品の点検・在庫確認作業を行い、寄託更新の準備を行う。
自己評価	30年度当初の寄託資料の預かり証書更新作業のための資料点検・データベース整理を行った。
課題・改善案	館蔵品の資料点検・データベース整理を行う。

C. 資料の修復は適切か。(5)

平成29年度目標	館蔵品を中心に、適切な資料の修復を行う。館蔵品・寄託品のうち、優先的に修理すべき資料のリストを作成する。
自己評価	館蔵品のうち、修理が必要なもの2件9点について、専門の業者による修理を行った。修理を優先する資料のリストは制作中。
課題・改善案	館蔵品の点検作業にあわせて、修理を要する資料のリストを作成する。

③資料管理

A. 収蔵点数は何件・何点か。(6)

平成29年度目標	収蔵資料全体の件数・点数を把握し、年度末に集計する。
自己評価	館蔵品は1,083件23,560点。寄託品は2,657件15,594点。(平成30年3月31日現在)
課題・改善案	年度末において、館蔵品・寄託品の件数・点数の集計を行う。

B. 資料の管理(台帳、データベース)は適切か。(7)

平成29年度目標	資料の管理を適切に行う。館蔵品・寄託品データベースの整序を行う。
自己評価	館蔵品は、館蔵品カードとエクセル形式のデータベース及びそれを出力した館蔵品台帳で管理している。寄託資料は、ファイルメーカー形式のデータベース及びそれを出力した寄託品台帳、預かり証書の写しを綴じた台帳で管理している。これらの台帳・データベースは、学芸課で一元管理している。
課題・改善案	データの整理とともに、データベースを持続可能、かつ安全で管理しやすいような構造になるよう、ハード・ソフト両面から継続的に検討する。

④資料の活用

A. 他機関へ資料を貸出ししているか。(8)

平成29年度目標	適切な管理・輸送が可能な博物館施設へ資料を貸出する。貸出基準の要件を検討・整理する。
自己評価	資料貸出件数12機関35件109点(主な貸出先: サントリー美術館・愛知県美術館・静岡県立美術館・MIHO MUSEUM・岩出市民俗資料館・有田市郷土資料館・和歌山県立紀伊風土記の丘など)
課題・改善案	貸出にあたってのおおむねの基準はあるが、それを明文化し、公表する必要がある。

B. 図書資料を収集し、研究や閲覧に供しているか。(9)

平成29年度目標	必要な図書資料を購入・受贈によって収集し、活用する。継続的な整理・データ化につとめる。
自己評価	29年度収集図書1,342点(うち購入18点)。すべて、図書データファイルに入力済み。
課題・改善案	継続的にデータファイル及び書庫内書架・学習室書架の整理につとめる。

C. 資料のデータを公開しているか。(10)

平成29年度目標	最新の情報により、館蔵品リストを当館ホームページ上で公開する。画像のリンクを検討する。
自己評価	ホームページで館蔵品目録(一部画像付き)・学習室架蔵図書目録を公開している。画像データは、52件公開中。
課題・改善案	館蔵品・図書資料の収集にあわせて、最新の情報になるように更新する。方向性を確認の上、現在デジタル化されている画像データのネット上での公開を行う。

2. 調査・研究

博物館長による所見	展覧会の準備のため集中的な地域調査は顕著な成果を上げているが、他方、中長期的な見通しのもと、県内の悉皆的な調査も試みられてもよいのではないかと。文化遺産課との密接な連絡・共同作業が望まれる。災害時に備えた調査研究が継続的に行われているのは評価でき、また昨年度あった寂光院調査のように、所蔵者の事情による調査も今後は積極的に受けていくのが望ましい。
評価部会による所見	和歌山市・寂光院への緊急合同調査は、状況に対して迅速に対応できた好個の取り組みであった。「災害の記憶」の調査・研究が継続され、進展していること、図録や研究紀要が容易に入手できる体制になっていることは評価できる。館の研究紀要以外に掲載された学術発表についても、年報等で公表した方がよい。

①調査

A. 調査件数。使命に基づいた調査研究を行っているか。(11)

平成29年度目標	使命に基づいた調査研究を行う。調査実績の把握・整理を行う。
自己評価	年間調査件数119件(展覧会関連資料調査・購入予定資料調査・依頼による調査)。
課題・改善案	成果・情報を共有するため、調査の概要を集積した実績記録・調査日報を作成する必要がある。

B. 外部機関・団体と共同した研究を行っているか。(12)

平成29年度目標	共同調査を行う。文化財の防災・防犯・保全などに関する調査は、積極的に関与する。
自己評価	「災害の記憶」に関する資料の調査(文化庁補助金事業、新宮市・北山村、18回)・寂光院文化財緊急調査(市立博物館・近代美術館・文書館・文化遺産課、7回)、など。
課題・改善案	和歌山県ゆかりの文化財について、計画的な調査だけでなく、緊急性のある調査にも柔軟に対応できるようにする。

② 研究成果の活用

A. 展示・教育普及活動等に成果が反映されているか。(13)

平成29年度目標	研究の成果を博物館の事業(展示・収集等)に反映させる。調査の成果であることをアピールする。調査概要の記録を集積する方法を確立する。
自己評価	特別展・企画展の展示において、研究成果を反映させた。
課題・改善案	展覧会が研究の成果によるものであることを、積極的にアピールする。

B. 学術的公表(館研究紀要・報告書・学会誌等)がなされているか。(14)

平成29年度目標	様々な機会を利用して、学術的公表(当館研究紀要・報告書・学会誌等)を行う。
自己評価	『和歌山県立博物館研究紀要』第24号や、展覧会図録等の中で、調査成果を公開した。
課題・改善案	さまざまな機会を活用して、研究成果の積極的な公開につとめる。

3. 展示

博物館長による所見	アンケートによれば、特別展・企画展は県民の要望をよく反映している。キャプションに新しい試みを行ったが、大人や子供を含めて、分かりやすい解説を今後も進めていく必要がある。外国人に対しては、必要最小限の情報提供が必要である。担当学芸員の不在である考古・近代については、人員要求も含め今後の課題である。
評価部会による所見	今後とも、特別展等のテーマ設定にあたっては、周年事業・県内地域に関するもの・時宜にかなったものという3つの視点を意識してほしい。堅実なテーマで特別展・企画展を開催しているが、中には少しソフトで子どもにも親しみやすいものも必要ではないか。また、共感を得られやすい同時代を扱った展示も時には必要である。企画展を通年で展開するのは、学芸員の数を考えると無理があり、研究・教育活動や課題解決のための期間を設けるためにも、企画展の数を減らし、力を準備に廻すことを検討する必要がある。常設展は20年以上、複製・模型やパネル類の更新が行われていないので、予算を確保して改良すべきではないか。子ども向けキャプションは、大いに前進している。

①常設展

A. 展示更新回数。計画的な展示替が行われているか。(15)

平成29年度目標	2回、実物資料の劣化防止につとめる。レプリカ・模型・パネル類の劣化・破損状況を把握・整理する。外国語表示をより充実させる。
自己評価	秋の特別展終了後の常設展復旧作業の際と年度末に、展示資料の点検及び一部資料の展示替えを行った。
課題・改善案	実物資料については、劣化防止のため、定期的に展示替えを実施する。レプリカ・模型・パネル等の補修・更新を行うための計画を策定する。開発済みのタブレット端末による情報提示システムについて、全面的に利用できるようにする。

B. 計画的な保守・管理が行われているか。(16)

平成29年度目標	映像装置・扉類を中心に、計画的な保守・管理を行う。
自己評価	映像装置の保守点検作業は、例年通り実施した。
課題・改善案	従来通り、映像装置を中心に保守・管理作業をおこなう。電動ガラス扉の修繕(1箇所)を行う。

② 特別展・企画展

A. 展覧会のコンセプトは妥当か。(17)

平成29年度目標	来館者の要望や地域バランスも参考にしながら、当館の使命によるコンセプトに基づいて展覧会を開催する。特別展は、「東照宮の文化財Ⅱ」「道成寺と日高川」の2本を行う。
自己評価	特別展・企画展のいずれも、和歌山県ゆかりの文化財をテーマとし、文化財の保存についての認識を深めたり、鑑賞の仕方をわかりやすく伝えるということを主眼においた。特別展「東照宮の文化財Ⅱ」は家康没後400年を記念して企画し、特別展「道成寺と日高川」は重文「道成寺縁起」の修理完成を記念した開催であった。夏休み企画展は、従前通り小中学生を主対象としつつ、美術教育との連携をはかり、広報・展示計画・関連イベントを実施した。
課題・改善案	調査研究の進捗状況や周年記念の行事などに合わせて、和歌山県ゆかりの文化財を基本テーマとして、展覧会を開催する。

B. 展示の構成・展示手法はどうか。(18)

平成29年度目標	来館者の要望などをふまえ、適切な展示の構成・展示手法をとる。
自己評価	特別展・企画展のいずれも、展示構成を明らかにするために、いくつかのコーナーに分けて、展示を構成した。サブキャプション・「かんたん解説」や展示クイズなど、解説を補足するためのアイテムも、適宜制作した。
課題・改善案	来館者などからの反応・意見なども参考にして、より良い展示手法の検討を行う。

C. 図録・パンフレット等を制作したか。(19)

平成29年度目標	特別展(2本)について、それぞれ図録を制作する。
自己評価	2本の特別展については、それぞれ展覧会図録を予定通り発行し、加えて企画展「きのくに 縁起絵巻の世界」についても展覧会図録を制作した。
課題・改善案	特別展については、従前通り図録を制作する。必要に応じて、予算の範囲内で、その他の刊行物も発行する。一部の企画展でも、図録や小冊子を発行できるような方策を検討する。

D. 展示資料・来観者の安全は確保したか。(20)

平成29年度目標	展示資料・来館者の安全を確保する。地震対応について、さらに検討し、計画的に実施する。
自己評価	全ての展示資料は、展示ケース内に収納して、展示環境の保全と防犯に留意した。展示ケース内では、平均20～22℃・60%、150ルクスの環境を保持した。展示室内では、来館者の足元の明るさを確保するために、ダウンライトやスポットライトを活用した。行灯形ケースでは、免震台を使用した。
課題・改善案	展示資料の保全と鑑賞のしやすさの両立をはかる。地震に対する、資料・来館者の安全の確保について、より十分な対策を講じる。来館者の協力を得て、避難訓練を実施する。

E. 開催後の反響はあったか。(21)

平成29年度目標	開催後も反響が続くような展示を行う。
自己評価	特別展「道成寺と日高川」については、地元での関心が継続しており、日本遺産登録への動きもみられる。企画展「南葵音楽文庫」については、一部ではあるが強い関心のあるを持つ県民の存在が確認できる。
課題・改善案	展示・公開した文化財が、各地域で継続して関心を持たれるような動きをサポートする。

③ 館内小展示・出前展示

A. 何回企画を実施したか。要望はあったか。(22)

平成29年度目標	館内小展示(コーナー展示・特集展示等)を2回程度実施する。利用者のニーズの調査を行う。
自己評価	ロビー展「さわって学ぶ仏像の基礎知識」、特集展示「醤油の町・湯浅」、コーナー展示「先人たちが残してくれた『災害の記憶』Ⅱ」を開催した。
課題・改善案	エントランスホールやギャラリーを、県民の学習の成果発表の場として活用できることを広報する。

④入館者の傾向

A. 入館者の動向(年齢層・地域・情報入手手段等)を把握しているか。(23)

平成29年度目標	入館者の動向を把握する。アンケート回答率の増加(10～15%)をめざす。
自己評価	アンケート調査を通年実施し、特別展・企画展ごとに集計し、入館者の動向の変化を把握した。全体の回答率7.9%。
課題・改善案	回答率は低い状態である。10～15%の回答率になるように工夫する。

B. 入館者が展示に満足しているか。(24)

平成29年度目標	利用者の満足度を測定する(アンケート調査)。「感想・意見」欄の要望に、可能な限り対応する。
自己評価	アンケート調査によると、満足度は、「大変良かった」・「良かった」を合わせて、89.5%であった。
課題・改善案	「感想・意見」欄に記された事項のうち、是正すべきものは対応する。

4. 教育普及

博物館長による所見	ユニバーサルデザインの理念にもとづく3Dレプリカの展示は好評であり、手軽にできる博物館教材として全国をリードすることも視野に入れるべきであろう。ただし、色づけと重さの問題解決とともに、予算化の努力が必要である。地域住民や小中学校との連携は積極的に進められている。ボランティア導入は、予想される様々な問題(事務量の増加)などを解決した上で進めるのが望ましい。
評価部会による所見	教育普及部門の業務について、教員退職者を活用する制度と実施を検討すべきである。また、博物館を利用して研修した教員と連絡を取り続け、教育方面でのサポーター役になってもらうことも有効ではないか。「さわられるレプリカ」づくり・「災害の記憶」の調査普及の事業を継続していることは、高く評価できる。

①学校・団体の利用

A. 学校・団体の利用回数。(25)

平成29年度目標	60校
自己評価	利用回数は54校。
課題・改善案	学校・クラス単位で利用しやすいような教材(ワークシート)の開発につとめる。出前授業にも、積極的に対応する。特に歴史や文化財に関心を持っている高校生に対してアプローチをはかり、博物館への要望もさぐる。

B. 利用者数。(26)

平成29年度目標	2,500人
自己評価	利用者数は1,251人。
課題・改善案	出前授業など、遠隔地の学校に対するサービスの手法について検討する。

C. 利用者が満足しているか。(27)

平成29年度目標	学校単位での利用時における、利用者の満足度を測定する手法を研究し、実施する。
自己評価	学校団体の利用後において、満足度調査を測定することができなかった。
課題・改善案	学校団体の利用時における、満足度や要望調査の手法を研究する。要望を把握する意味においても、学校に対する個別の広報活動が必要である。

② 講演会・博物館講座

A. 講演会・博物館講座の回数。(28)

平成29年度目標	5回
自己評価	5回(特別展「東照宮の文化財Ⅱ」関連(講演1回・講座2回)、特別展「道成寺と日高川」関連(講演会2回、台風により1回中止))
課題・改善案	同じテーマに関する連続的な講演会・講座は効果的であるので、他の行事とのバランスを取りながら実施する。

B. 講演会・博物館講座の参加者数。(29)

平成29年度目標	300人。
自己評価	273人(特別展「東照宮の文化財Ⅱ」関連(90人)、特別展「道成寺と日高川」関連(183人))
課題・改善案	開催の時期やテーマ、広報手段の検討が引き続き必要である。

C. 参加者が満足しているか。(30)

平成29年度目標	利用者の満足度を測定する(アンケート調査を行う)。
自己評価	4回分のアンケート調査を行った。おおむね90%以上、「大変良かった」「良かった」という反応であった。
課題・改善案	特別展の内容をより詳しく広めることのできる行事として、今後とも実施していくべきである。

③展示解説・体験学習・ワークショップ・見学会・関連行事等

A. 行事の回数。(31)

平成29年度目標	展示解説37回・体験学習2回・見学会1回・現地学習会2回
自己評価	特別展・企画展合わせて展示解説39回、体験学習3回、現地見学会1回、現地学習会2回
課題・改善案	現在の回数や規模をおおむね現状で維持する。

B. 行事の参加者数。(32)

平成29年度目標	展示解説600人・体験学習50人・見学会20人・現地学習会180人。行事の告知を充実させる。
自己評価	展示解説1,051人・体験学習108人・現地見学会45人・現地学習会114人
課題・改善案	現在の参加者数をおおむね現状で維持する。

C. 参加者が満足しているか。(33)

平成29年度目標	利用者の満足度を測定する(アンケート調査を行う)。
自己評価	現地学習会(2回)および体験学習(2回)でアンケート調査を行った。現地学習会ではおおむね80%以上、体験学習ではほぼ100%が「大変良かった」「良かった」という反応であった。
課題・改善案	こうした行事の際のアンケート調査を実施して、参加者の要望を把握する。

④県民との協業

A. ボランティア制度を導入しているか。(34)

平成29年度目標	現行のボランティア制度をより充実させる。一般向けのメニュー開発・募集方法等を検討する。
自己評価	県教委と和歌山大学教育学部の連携協定に基づく、学生ミュージアムボランティア制度により、今年度は6人が参加し(延べ39回)、「さわれるレプリカ」彩色や音声ガイドナレーションを行った。今年度から、メニューに「さわれるレプリカ」の彩色作業を加えた。
課題・改善案	大学と当館との連絡を密にして、継続して実施していく。なお、一般向けのボランティア制度についても、内容や募集方法・受入体制を検討する。

B. 友の会・支援組織をつくっているか。(35)

平成29年度目標	友の会などの支援組織との協力関係を維持する。
自己評価	和歌山県立博物館友の会という任意団体が組織され、当館総務課内に事務局を置いて、20年間継続している(会員数140人)。
課題・改善案	友の会の事業を支援するとともに、友の会からの人的・経済的支援などの協力が得られるような環境を整備する。

C. 地域・学校等と連携した事業をおこなっているか。(36)

平成29年度目標	文化財の防災・防犯、ユニバーサルデザイン等を主眼において、地域・学校と連携した事業を行う。
自己評価	県内文化財の保全や被災時の救援活動を円滑に行うことを目的とした、和歌山県博物館施設等災害対策連絡会議を運営した(加入機関数78)。和歌山工業高校・和歌山盲学校と連携した、「さわれるレプリカ」・点字図録制作を引き続き実施した。また、岡山幼稚園の園児作品の展示を行った。
課題・改善案	文化財の保全・防犯・防災、ユニバーサルデザインなどの観点を中心に、連携した活動を行う。

D. 観光政策に対応するような方策を行っているか。(37)

平成29年度目標	市内類縁施設との相互案内・割引サービスの検討を行う。
自己評価	和歌山城とその周辺にある県立・市立の博物館施設における相互入館料割引制度を開始した。特別展のちらし・ポスター・年間展示計画を県内ホテル・旅行案内所・観光業者等へ送付(207件)。
課題・改善案	引き続き、市内類縁施設との相互案内・割引サービスを行うとともに、連携した企画を実施する。

⑤人材育成

A. 学芸員実習・インターンシップ・教員研修などを受け入れているか。(38)

平成29年度目標	学芸員実習・インターンシップ・教員研修などを受け入れる。
自己評価	学芸員実習受入人数8人、インターンシップ12校22人、教員研修(10年経験者研修2回18人)
課題・改善案	他の業務の支障にならない範囲で、従来通り積極的に受け入れる。

5. 広報・情報発信

博物館長による所見	ポスター、チラシを各所に送付し、またメディアの利用をさらに拡大する必要がある。特別展では、関東地方など遠方から展覧会目的でわざわざ来る観覧者がいるのは、見るべき展覧会だと認識しているからだが、広報・情報発信のもとには、そういった良い展覧会の企画がある。
評価部会による所見	報道機関の大阪の拠点から、関西圏への広報を行えるようアプローチしてみるべき。高齢者がよく利用するバスの利用者向けの工夫(バス停への館名表示など)を、研究する必要がある。県民等からの問合せ・相談には、十分対応しているといえる。

①県民への直接的情報提供

A. 問い合わせ・質問(電話・来館等)へ対応しているか。(39)

平成29年度目標	問い合わせ・質問(電話・来館等)へ対応する。重要なものについては、記録を作成し情報の共有化をはかる。
自己評価	地域の文化財情報を有する中核的施設として、809件の問い合わせ・質問などに対応した。
課題・改善案	対応の件数・内容を把握し、重要なものについては、記録を作り、情報の共有化をはかる。

②メディアへの情報発信

A. 掲載件数。メディアへの広報・情報活動は行っているか。(40)

平成29年度目標	メディアへの広報・情報活動を、より積極的に行う。
自己評価	報道機関への資料提供回数:14回・新聞(一般紙)への掲載件数:72回・コラム記事(『和歌山新報』):50回・テレビ・ラジオ番組への出演:13回
課題・改善案	メディアに対して、より積極的な情報提供につとめる。

③ホームページによる広報

A. アクセス件数・更新回数。(41)

平成29年度目標	年間閲覧回数:46,000カウント・トップページ更新回数:8回
自己評価	年間閲覧回数:37,978カウント・トップページ更新回数:8回、主要なミュージアム検索サイトに、当館の基本情報を掲載するとともに、展覧会情報をその都度更新した。
課題・改善案	情報提供のタイミングをはかりながら、適切に内容の更新を行う。

B. コンテンツ・デザイン等を工夫しているか。(42)

平成29年度目標	コンテンツ・デザイン等を工夫する。トップページのデザイン更新を検討する。
自己評価	随時更新できる「博物館ニュース」(ブログ・ツイッター形式)により、当館の最新情報を双方向で提供している。
課題・改善案	トップページのデザインをはじめ、より見やすく、分かりやすい構造(多言語化を含む)になるように検討する。

④印刷物の制作

A. ポスター・チラシ・館だより・カレンダー等による情報提供・広報活動は行っているか。(43)

平成29年度目標	ポスター・チラシ・館だより・カレンダー等による情報提供・広報活動を行う。送付先・送付枚数等を随時検討する。
自己評価	特別展については、ポスター・チラシ(カラー)を制作し、各方面へ送付した。「道成寺と日高川」(2,682件)、「紀伊徳川家 やきもの新時代」(2,674件、30年度)。企画展については、チラシ(単色刷)を制作し、館内等で配布した。また、館だより・年間展覧会のご案内(カレンダー付き)・教員向けパンフレットは、30年度春の特別展の広報物発送と同じ便で発送した。
課題・改善案	より効果的な配布先・配布枚数の検討を行う。

⑤協力活動

A. 他の団体・機関の活動に協力したか。(44)

平成29年度目標	他の団体・機関の活動に協力する。県立博物館施設の連携事業に、引き続き参加する。当館の専門性を活かした依頼については、他の業務に差し支えない範囲で協力する。
自己評価	近代美術館と合同のバックヤードツアーを実施した。県立5施設の合同企画(節電キャンペーン・「風土記まつり」)に参加した。収蔵写真資料の外部への使用許可・貸出:123件335点、講演の依頼:9件、委員等の委嘱:7件、執筆依頼:2件、学習室の貸出:18件、収蔵資料の特別閲覧:32件
課題・改善案	県立博物館施設の連携事業には、引き続き参加する。当館の専門性を活かした依頼については、館の業務に差し支えない範囲で協力する。

6. 組織と運営

博物館長による所見	総務課と学芸課が一体となり運営されていること、および学芸各員の自主性が重んじられているところは大きいと評価できる。入館者数が微増しつづけるよう配慮する必要がある。常設展示の考古部門の更新・充実が望まれる。
評価部会による所見	アンケート調査などによる指摘事項への改善点について、情報を開示することが望まれる。避難誘導訓練は、来館者を含めた実地訓練を実施すべきである。学芸員の専門領域が不足している分野については、学芸員同等の立場で調査や展示準備に取り組むことのできる人材を確保し、協力体制を構築することが必要である。

①組織・人員

A. 危機管理・防災体制についてマニュアルを作成、実地訓練等を行っているか。(45)

平成29年度目標	危機管理・防災体制についてマニュアルを作成し、実地訓練等を行う。
自己評価	防災マニュアルは整備されている。防災放送・避難誘導の実地訓練を行った。
課題・改善案	地震を想定した避難誘導訓練を実施する必要がある。来館者入館時に、訓練を実施できるか検討する。

B. 個人情報の保護・データ管理が適切に行われているか。(46)

平成29年度目標	個人情報の保護・データ管理を適切に行う。電子データの管理について、複数存在する館内ネットワークごとの取扱い上の指針を定める。
自己評価	県の定めた基準に基づいて実施している。
課題・改善案	館内の複数のネットワーク・端末上の電子データについて、管理・取扱い上の指針を定める。

C. 館内外の研修に対して、職員が参加できる体制がとられているか。研修参加の実績。(47)

平成29年度目標	館内外の研修に対して、職員が参加する。学芸員にとって必要な研修については、長期的な受講計画をたてる。
自己評価	県教委の全職員を対象とした人権研修に職員が参加した。また、学芸課内で刀剣類の取扱研修を行った。
課題・改善案	文化財の取扱い・保存科学についての研修(文化庁・東京文化財研究所主催)を、全ての学芸員が受講できるような長期的な計画をたてる。

②県民の期待に応える運営

A. 利用者数:当該年度の利用者数は何人か。(48)

平成29年度目標	37,000人。年間利用者数の目標値をたてるための、設定根拠を整理・検討する。
自己評価	入館利用者数は33,517人(28年度36,922人、27年度33,428人)。前年度と比べて、特別展が1本少なかったこと、秋の特別展の時期に台風が到来したことなどから、やや入館者数が減少した。
課題・改善案	入館者数の目標値の設定根拠を整理・検討することが必要である。年度中の状況変化に対応するための方策を検討する。

B. 利用者の満足度、ニーズなどの調査を行っているか。(49)

平成29年度目標	利用者の満足度を測定する(アンケート調査を行う)とともに、その手法についての検討を行う。
自己評価	各展覧会・講演会・博物館講座・現地学習会で、アンケート調査を行った。
課題・改善案	運営・実施上、アンケート調査が困難なものがあるので、代替の手法を検討する。

C. 調査結果を反映した運営を行ったか。(50)

平成29年度目標	アンケートなどの調査結果を反映した運営を行う。寄せられた意見の集約・整理を行う。
自己評価	各展覧会・講演会・博物館講座・現地学習会で寄せられたアンケートの集計を行った。
課題・改善案	利用者の意見に対して、いかに対応したのかを公開して、こうした調査の有効性を明らかにする。

③情報公開

A. 使命、目標、計画などの方針を公開しているか。(51)

平成29年度目標	使命、目標、計画などの方針を公開する(ホームページ等で公開する)。
自己評価	「博物館の使命」をホームページで公開している。
課題・改善案	年度目標をホームページに掲載する必要がある。

B. 実績の検討や評価を行い、その結果を公開しているか。(52)

平成29年度目標	実績の検討や評価を行い、その結果を公開する(ホームページ・年報等で公開する)。
自己評価	ホームページ上で、28年度評価を公開した。『研究紀要』24号(3月発行)に収録された年報により、前年度(28年度)の実績を公開した。
課題・改善案	評価部会の総括をふまえ、年度のできるだけ早い段階で公開することが必要である。評価で示された課題・問題点を整理・解消するための、体制作りが必要である。評価の方式・内容についても、改良を加える。

7. 施設・設備

博物館長による所見	ガラスの飛散防止などの工事は行われたが、陳列台免震、ケース免震を考える必要がある。昨年も提案したが、カビ防止は早めに対策を講じておいた方がよい。
評価部会による所見	経年劣化による建物・設備の改修を、計画的に進めるべき。外国人への対応(多言語化)は、タブレット端末やスマートフォンを利用した方式について研究することを望む。

①施設設備の維持管理

A. 日常的な点検の有無、改修保全の実施、安全衛生の管理が行われているか。(53)

平成29年度目標	日常的な点検の有無、改修保全の実施、安全衛生の管理を行う。
自己評価	館内の重要な設備(空調・電気・警備など)については、日常的に点検が行われている。また、来館者の利用する部分については、日常的に清掃がほどこされている。外壁の打診検査を受けた。
課題・改善案	引き続き、従来の設備点検・保守管理・清掃を行う。

B. 施設・設備の改修・整備が行われたか。(54)

平成29年度目標	施設・設備の改修・整備を状況に応じて行う。
自己評価	展示室入口床面の補修、屋外看板(3箇所)の更新(英文併記)、前庭部雨水管の導通工事を行った。
課題・改善案	状況に応じて改修・整備を行うための予算(修繕料)を確保する。

C. 長期修繕計画を有しているか。(55)

平成29年度目標	長期修繕計画が実施に移せるよう、最新の動向・基準についての調査を行う。大規模な地震に対する安全性について再確認し、必要な措置を講ずる。
自己評価	空調機及び展示室照明の更新については3か年計画で実施に移される。
課題・改善案	地震被害の予防に関する動向や基準について、情報を把握して具体的な計画に反映させる。

②アメニティーの向上

A. バリアフリー対策、ユニバーサルデザイン等の対応が取られているか。(56)

平成29年度目標	「さわれるレプリカ」作りを継続する。館内外国語サインの充実を図るとともに、音声ガイド多言語化をめざす。
自己評価	平成22年度から、文化庁補助金によって実施してきた「さわれるレプリカ」と「さわって読む図録」の制作を29年度も実施した。
課題・改善案	引き続き制作するとともに、館内外での活用形態の幅を広げて、利用促進をはかる。

B. 利用者に対する待遇は適切か。待遇の向上がみられたか。(57)

平成29年度目標	利用者に対する待遇向上のための研修を行う。入館料割引や駐車場料金の見直しなどの作業を行う。
自己評価	県教委作成の「待遇マナー」にもとづいて、利用者に待遇した。聴覚障害者のための筆談に対応した（「耳マーク」の表示）。
課題・改善案	駐車場の料金体系改定に見通しが付いたので、早期に実施する。

8. 財源

博物館長による所見	現予算を下回らないよう努力が必要である。文化庁補助金のほかに、現状は閉ざされている科研費の申請ができるよう、他館との情報交換が必要であろう。
評価部会による所見	外部資金は有効に活用されている。科学研究費補助金を獲得できる研究機関認定、科研費による研究資金拡充をめざす必要がある。

① 予算の確保

A. 入館料収入・当初計画に対する実際の収入達成率。(58)

平成29年度目標	歳入6,246千円(当初見込)。当初見込額に達するようにつとめる。
自己評価	歳入6,113千円(決算額)、達成率97.9%
課題・改善案	当初見込額に達するようにつとめる。

B. その他の収入の確保について。(59)

平成29年度目標	県一般財源54,954千円(当初見込)。必要な財源の確保につとめる。
自己評価	県一般財源50,287千円(決算額)
課題・改善案	博物館の使命を果たすために必要な財源の確保につとめる。

C. 外部助成金等を獲得しているか。(60)

平成29年度目標	文化庁補助金等の外部助成金を獲得する。
自己評価	文化庁平成29年度地域の核となる美術館・歴史博物館創造活動支援事業：交付額7,560,423円
課題・改善案	引き続き、文化庁からの助成金を中心に、交付金・外部助成金等の獲得につとめる。